



読書週間！たくさんの本を読もう！

6月11日から21日までの10日間、「しずく読書週間」が始まります。せっかくの読書週間です。頑張りましょう。

さて、以前ご紹介しましたが、山本忠義様からいただきました寄付金につきましては、学校・保護者・児童で考えて、「**米山文庫**」の充実を図ることにしました。そこで、図書委員会が呼びかけ、児童全員から「本のリクエスト」を募集して、書店に**72冊**注文をしました。



岡崎市で昨年度、**読書習慣**について調査をしたところ、**ほぼ毎日本を読んでいる児童は、50.1%**ありました。つまり、二人のうち一人は毎日本を読んでいることになります。それというのも、**71%**の児童が「本がとても好き（または）好き」という結果でした。

最近、テレビやスマートフォン、パソコンやゲーム機などによって文字離れが進んで炒ると言われていますが、岡崎市の小学生においては、5年前に比べて毎日読んでいる児童の数は倍以上増えています（H25年度は23.3%）。毎日読んでいる理由としては、「想像力が豊かになる」「新しい言葉を覚えることができる」「新たな知識を得ることができる」などの理由があるそうです。

今年の12冊の課題図書（第65回青少年読書感想文全国コンクール「課題図書」）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ●低学年：「魔法のろいアメ」 | 「スタンリーと小さな火星」 |
| 「心ってどこにあるのでしょうか？」 | 「もぐらはすごい」 |
| ●中学年：「かみさまにあいたい」 | 「子ぶたのトリュフ」 |
| 「そうだったのか！しゅんかん図鑑」 | 「季節のごちそうハチごはん」 |
| ●高学年：「ぼくとニケ」 | 「かべのむこうになにがある？」 |
| 「マンザナの風にのせて」 | 「もうひとつの屋久島から」 |

紫陽花（アジサイ）は・・・

アジサイは、6月から7月の時期に咲きます。花をよく見ると、花びらが4枚集まって花をつくっています。その小さな花が集まって一つの大きな花を作っています。花びらは、濃い色、薄い色、白み、青みがかかっているなど、色や大きさも違ってきます。それが花となると、バランスが取れたすてきな花となります。

大きなアジサイの花を「**常磐東小学校**」に例えてみます。他の生き物から見ると、おそらくどの人も同じように見えると思います。アジサイは、小さな花が隣の花や花びらと仲良しになって、大きな花となっていることから、協力することの大切さを教えてくれています。みなさんも周りの人に対していじめのない生活をしましょう。

さらに、アジサイは、雨などに負けずに美しく咲いています。みなさんもつらいことや悲しいことに負けずに、それを乗り越えていきましょう。



大切な命を守る！～心肺蘇生法訓練～

本校では、「命」の大切さを教育の柱にしています。また、防災学習にも力を入れ、学習を積み重ねています。毎年、PTA主催で、消防署にご協力をいただき、保護者・教職員対象の心肺蘇生法講習会を行っています。

今年も、さらに、6月5日、2階オープンスペースで、5年生と6年生を対象に開催しました。講師は、大柳町の前総代の大山恭司様をお迎えしました。大山様は、元岡崎市西消防署長で、救急救命士の資格を市内で最も早く取得された方です。大山様は緊急時の対応について、DVDを活用したり、胸骨圧迫やAED操作の仕方や岡崎消防署への通報訓練等を、子供たちにも分かりやすいように教えてくださったりしました。とても勉強になりました。

子供たちも、今回の講習で小学生の自分たちでも大切な家族や友達あるいは周りの人の命を守ることができるという自覚が生まれました。

なお、ご講演後は、職員を対象に「3時間講習」という救命訓練を行いました。

大山様、本当にありがとうございました。



努力すれば幸運はやってくる

8歳のタニトルワ・アデウミは、今年の春、チェスの同年代の部門で優勝し、アメリカ（ニューヨーク）チャンピオンになりました！

2年前の2017年6月、タニトルワ君の家族4人は過激派「ボコ・ハラム」の襲撃を恐れてナイジェリアを離れ、アメリカへ避難してきました。

しかし、生活は苦しくホームレス施設に滞在していました。8歳のタニトルワ君は、ニューヨークの学校に通う小学3年生。1年前にチェスを始めたばかりでした。チェスはニューヨークでホームレスの保護施設に滞在している時に覚えたそうです。小学校でチェスの指導をしていたショーン・マルティネス先生が声をかけて大会に参加したそうです。マルティネス先生は、

「(タニ君は) 戦術に優れ、記憶力も素晴らしい。しかし勝利に導いたのは才能だけではありません。普通の子が練習をやるのは、1週間で50～100回程度。(タニ君は) 週に500回もやっていたんです。」

と話されました。

タニトルワ君は、チェスが大好きなのは「深い思考」が求められるからだとし、将来は最高位のグランドマスターの称号を獲得したいと夢を語ったそうです。

その後、タニトルワ君のための募金活動が始まり、4日間で19万ドル（約2100万円）以上の寄付が集まったそうです。

しかし、タニトルワ君の一家は、その貴重なお金は、自分たちが使うのではなく、「タニトルワ・アデウミ基金」を創設し、難民や移民の支援に役立てると発表されました。

